

■まちづくり便り等への意見（追加分）

1	・水門整備により浸水深はそれほど深くないという結果が出たとの事だが、津波シミュレーションにおいて震源の違いも検討されているのか？宮古湾は北に開いており、今後三陸北のプレートが震源になった場合、釜石や陸前高田なみの波高になることはないのか。前のシミュレーションでは1m未満の浸水だったこの地域に、今回のような被害が出ており「はい、そうですか」という気持ちにはなれない。 ・素案を見ると「非可住」「構造制限付」と言った言葉がなくなり「商業、サービス業、水産加工」施設ゾーンといった言葉になっているが、この地域に住宅を建てることは出来るのか、出来ないのか。出来ない場合、買い上げはしてもらえるのか。 ・まちづくりの姿は見えてきたようだが、避難場所に置ける備蓄や非常用電源、水利についてはどうなっているのか。 ・どの地域にも「公共施設」が設定されているが、具体的には何が出来るのか。「公民館」「地区センター」などの集約をはかり必要な施設として何を作るのか見えるようにして欲しい。でないと、実際の避難所として機能する建物が本当にこんなにたくさん確保できるのか疑問。愛宕小に公営住宅が出来たら実際に避難出来る建物がなくなっては困る。 ・中央公民館は急傾斜上にあり、狭小で老朽化している。避難場所とするなら市役所、分庁舎も含め、改修、整備すべきではないか。 ・具体的な設計を進めるにあたり、市街地で国土調査を進めて欲しい。どのみち測量は必要。 ・全壊、全半壊の罹災証明があり、かつ家屋等を解体した場所については、基礎撤去について市が行って欲しい。隣地の所有者の同意をとろうにも住民には隣地所有者と連絡が取れなかったり、法的な手続きがわからないケースもある。行政は復興推進のためにも、これらの相談や援助を受け付ける窓口を作って欲しい。また、上記のような理由から最初にあげたケースについては、基礎撤去の期限は無期限にして欲しい。土地のことで泣き寝入りする被災者を作らないで欲しい。 (40 歳代 女性)
---	--